

## 皇太子殿下お言葉（仮訳）

持続可能な開発のための教育（E S D）に関する  
ユネスコ世界会議開会全体会合  
平成26年11月10日（月）  
名古屋国際会議場

ボコバ事務局長  
ララ・ハスナ王女殿下  
御列席の皆様

国内外から多くの参加者を迎え、持続可能な開発のための教育（E S D）に関するユネスコ世界会議が開催されることを誠に喜ばしく思います。

我々の住む地球上では、経済成長と人口増加に伴い、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等が進んでいます。将来にわたって、恵み豊かな生活を確保するための基盤となる環境を守り、地球上の限りある資源を大切に、持続可能な形での発展を達成していくために、私たち人類は、英知を結集し、力を合わせて取り組んでいかなければならないと感じています。

このような状況の中、1992年のリオ・サミットから20年を経た2012年6月に、再びリオデジャネイロにおいて、「国連持続可能な開発会議」が開催され、世界188か国により、「我々の求める未来」という文書が合意されました。今、私たち一人一人が、私たちの望む持続可能な未来に向けてどのように行動するかが問われています。

「持続可能な開発」の達成のためには、私たち一人一人が、世界の人々や将来世代、また、環境との関係性の中で生きていることを認識し、国際的な視野を深め、地球上の様々な問題について考えることが必要です。教育はそのための基礎となるものです。

「国連E S Dの10年」として、この10年間、世界各国で様々な形でE S Dに取り組まれてきたことと思います。その最終年に当たる本年、提唱国日本のここ名古屋でE S Dに関するユネスコ世界会議が開催されることは、大変意義深いことです。

また、本世界会議に先立って、岡山市において、世界各国から集まった高校生や若者などがE S Dの推進に関して熱心に議論を重ねたと聞いております。こういった若者たちが持続可能な社会の担い手として、未来の地球を支えていってくれるものと期待しています。

終わりに、本世界会議の開催に関わった全ての方々の努力に心から敬意を表するとともに、この会議において、E S Dを推進するための活発な議論が行われ、今後、その成果を踏まえ、持続可能な社会の構築に向け、教育分野での具体的な取組が更に進むことを願い、私の挨拶といたします。